

前回の執筆以来5カ月が過ぎましたが、いまだ新型コロナウイルス感染症が終息する気配をみせません。100年に一度の災禍で、もはや元の世界には戻れないともいわれますが、確かに今までの常識、スタンダードが通用しなくなり、パラダイムシフトが起こりつつあるように思います。

最も感じるのは自分の衛生感覚の変化です。病院ではもともと手指衛生の実施がうるさいほど言われていましたが、さらに徹底するようになりました。今まで素手で触っていたドアノブやエレベーターのボタンを気にするようになりましたし、パンや総菜をトングで取るのも抵抗があり、個包装のものを選ぶようになりました。ブッフスタイルの食事もしばらくはお目にかかれそうにありません。ちなみに今夏は手足口病やヘルパンギーナ、感染性胃腸炎などが例年に比べて激減しているそうです。

一方、今まで当たり前と思っていたことが実はそうではなかった、という気づきは良い面もないわけではありません。在宅ワークへの転換やWeb会議の活用など、働き方に関して様々な変革が進んでいます。

学会の在り方も変わりました。日本皮膚科学会が完全Web開催となりましたが、評判は良かったようです。時間帯によって接続できないトラブルがあったものの、自宅にいながら単位が取得できる、満席で座れないことがない、会場を移動することなく視聴できる、などの意見が寄せられました。懇親会なしでこの参加費は高いという批判も一部にはありましたが、他の領域はどうかという完全Webが主流であるものの、8月になりますと日本感染症学会、日本腎臓学会などが現地開催とWeb開催を併用したハイブリッド方式で行われたとのこと。ただ、人づてに聞いた話では現地参加人数はまだ少なく、ランチョンセミナーのお弁当が大量に余ったということです。皮膚科では9月に日本臨床皮膚科医会総会がハイブリッド開催を予定していますが、注目されるところです。

経済を止めることのデメリットを考えると新型コロナを恐れすぎだという意見も聞かれ始めました。ピーク時の死者数は新型コロナの方が季節性インフルエンザよりも少ないというデータもあり、新型コロナ観をそろそろ変えるべきで新型コロナウイルスを2類感染症相当の指定感染症から外すよう求める声も上がり始めています(季節性インフルエンザは5類感染症)。様々な理由により新型コロナはまだ指定感染症にとどまるように思われますが、敵をよく知り正しく恐れる心構えが大切です。

(五十嵐敦之)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第62巻 第10号 9月号 2020年9月1日発行(毎月1回1日発行) 定 価 (本体 2,700 円+税) 年間購読料金 定価 (本体 42,100 円+税) [年間13冊(臨時増刊号、増大号を含む)の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165 [編集室直通] TEL 03(3811) 7184 [営業部直通] FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
---	---

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。